

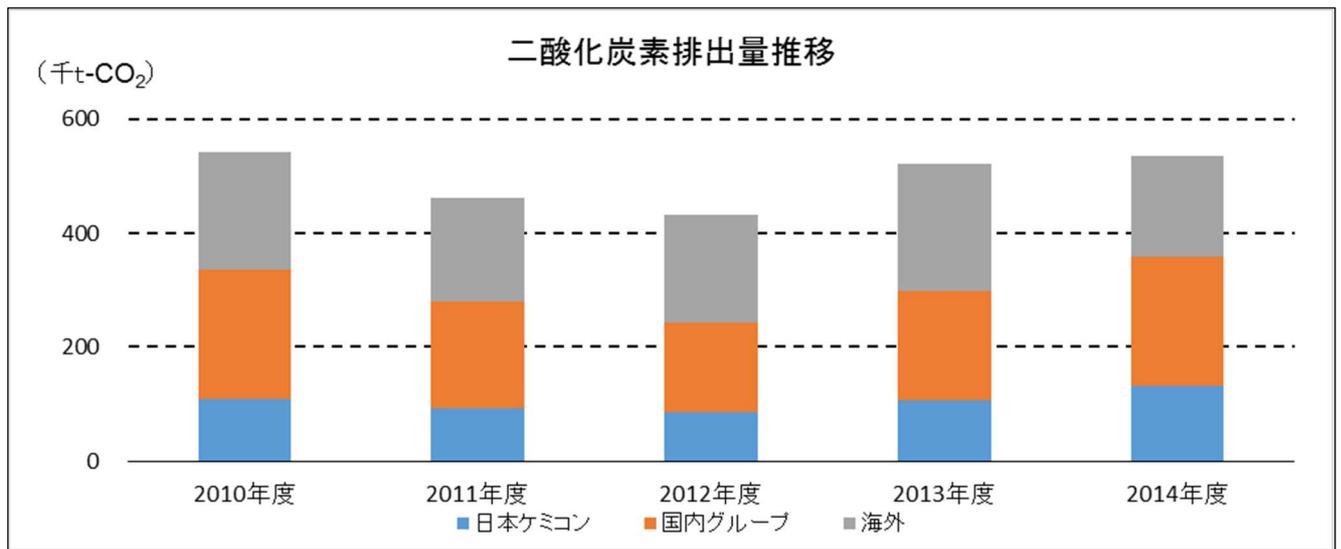
## 省エネルギー

### 1. 日本ケミコングループの二酸化炭素排出量推移

(単位:t-CO<sub>2</sub>)

年度		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
日本ケミコングループ		497,105	474,470	432,063	521,347	535,665
国内	国内	290,655	290,923	242,575	296,864	359,690
	(内訳) 日本ケミコン	107,657	93,126	86,864	107,101	132,215
	(内訳) 国内グループ	182,998	197,797	155,711	189,763	227,475
海外		206,450	183,547	189,488	224,483	175,975

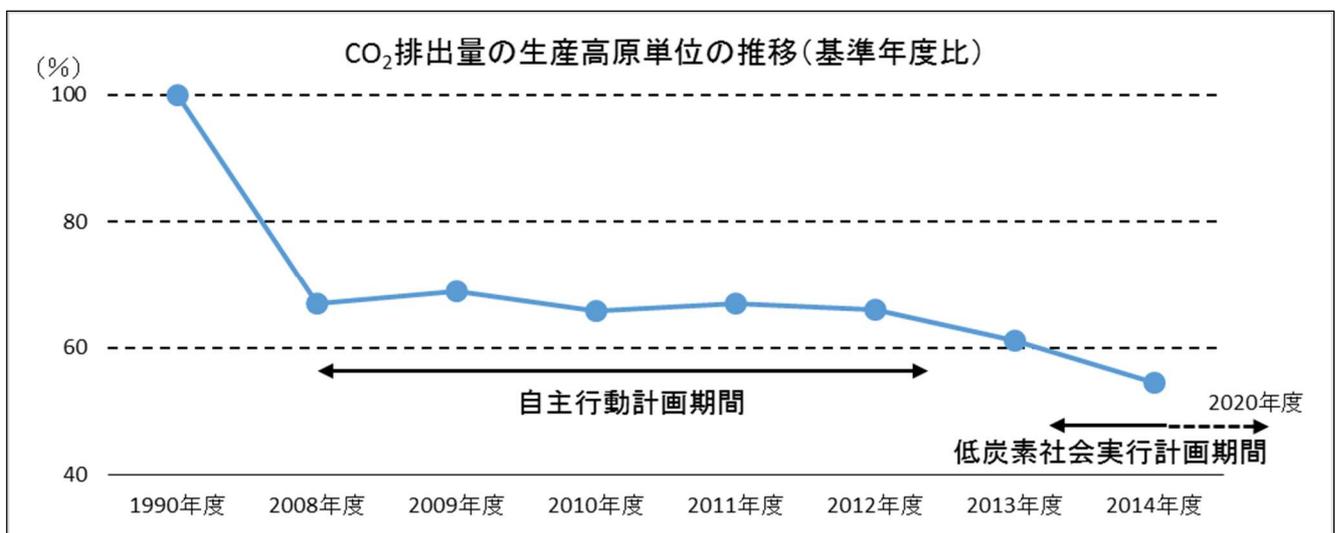
(排出係数は調整後排出係数を使用)



### 2. CO<sub>2</sub> 排出量の生産高原単位の推移(国内事業所)

(単位:%)

年度	1990年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
1990年度比	100.0	67.0	69.0	65.8	67.0	66.0	61.1	54.5



## 3. GHG スコープ 3 排出量の算出

日本ケミコングループでは二酸化炭素の排出量の削減を重要テーマと捉え、間接的な排出としてスコープ3基準に準じた取組みを行っています。

## 【雇用者の通勤】

(単位:t-CO<sub>2</sub>)

年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
スコープ3カテゴリ7	-	-	-	-	1,254

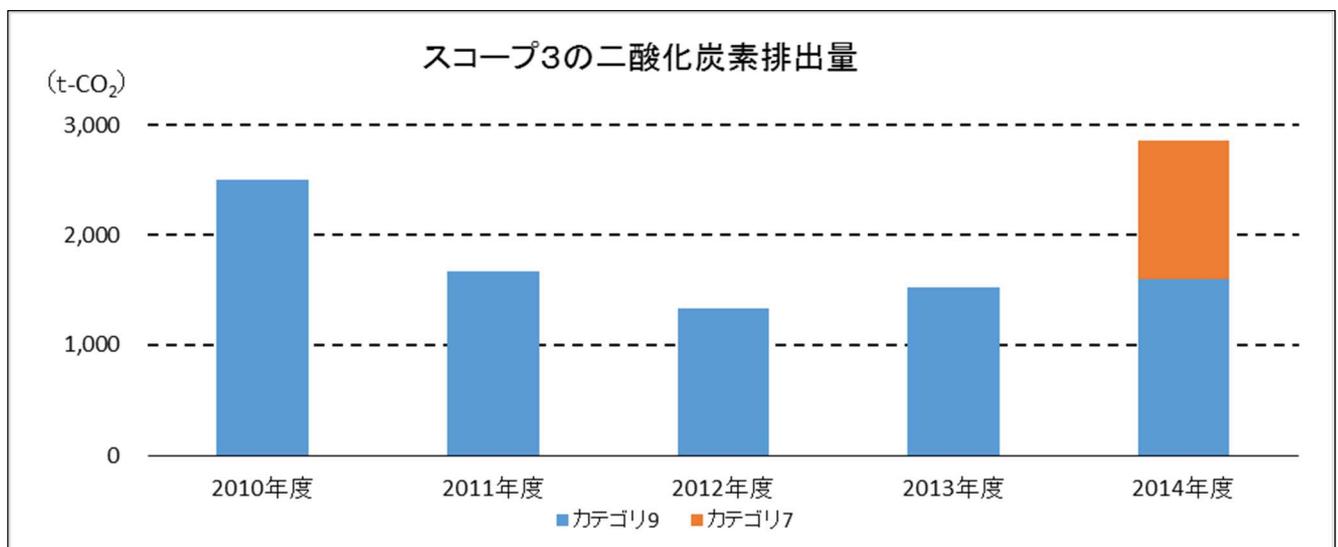
※範囲は国内

## 【輸送、配送(下流側)】

(単位:t-CO<sub>2</sub>)

年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
スコープ3カテゴリ9	2,500	1,678	1,333	1,515	1,600

※範囲は国内



## 省資源

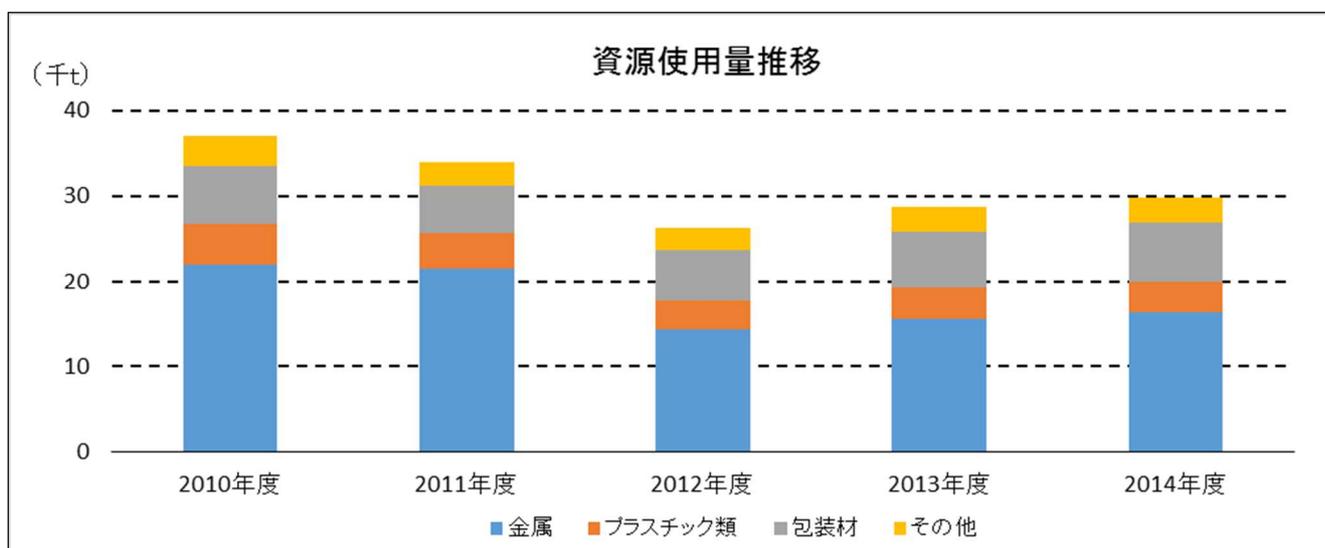
企業の生産活動において資源は必要不可欠なものであり、限りある資源を効率よく使用する事は、地球環境の保全や生態系の保護などの観点で最も重要なことです。

当社グループでは3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進や生産プロセスの改善により、資源の有効利用を促進しています。

### 1. 日本ケミコングループの資源使用量推移

(単位:t)

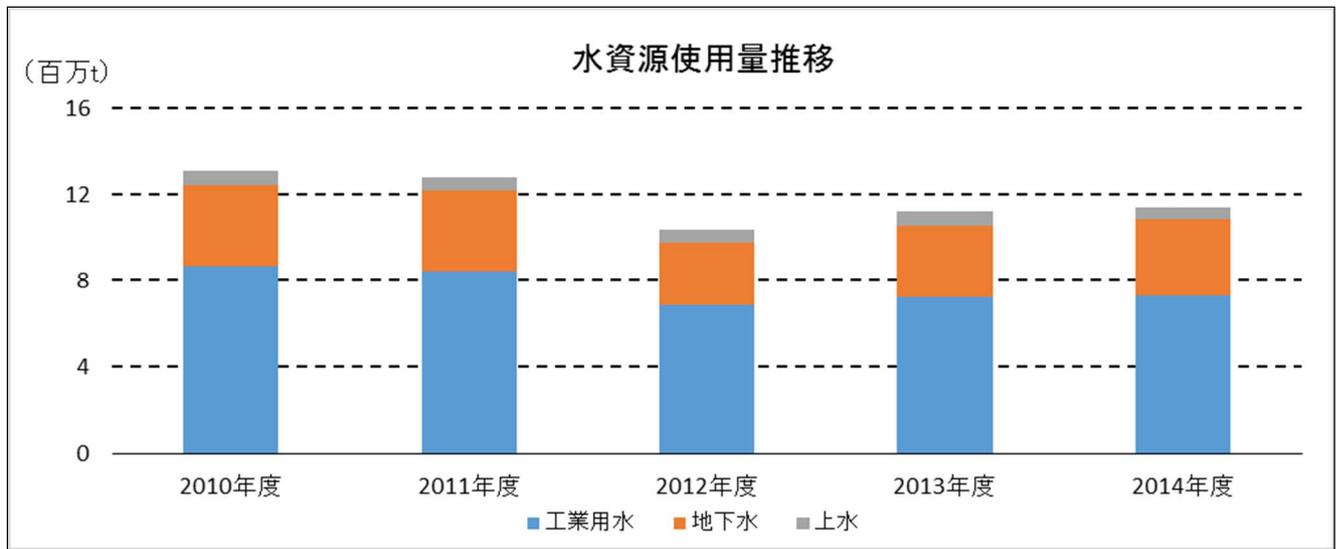
年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
金属	21,994	21,580	14,373	15,620	16,322
プラスチック類	4,738	4,102	3,294	3,663	3,658
包装材	6,700	5,586	5,945	6,569	6,943
その他	3,535	2,739	2,608	2,885	2,960
合計	36,967	34,007	26,220	28,738	29,884



### 2. 日本ケミコングループの水資源使用量推移

(単位:千t)

年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
工業用水	8,661	8,418	6,883	7,230	7,251
地下水	3,752	3,779	2,875	3,321	3,592
上水	708	614	601	649	569
合計	13,121	12,811	10,359	11,201	11,412



## 廃棄物

当社グループは産業廃棄物の発生量を削減する活動と共に、3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推進する事で、資源循環及び最終埋立て処分量の削減に取り組んでいます。

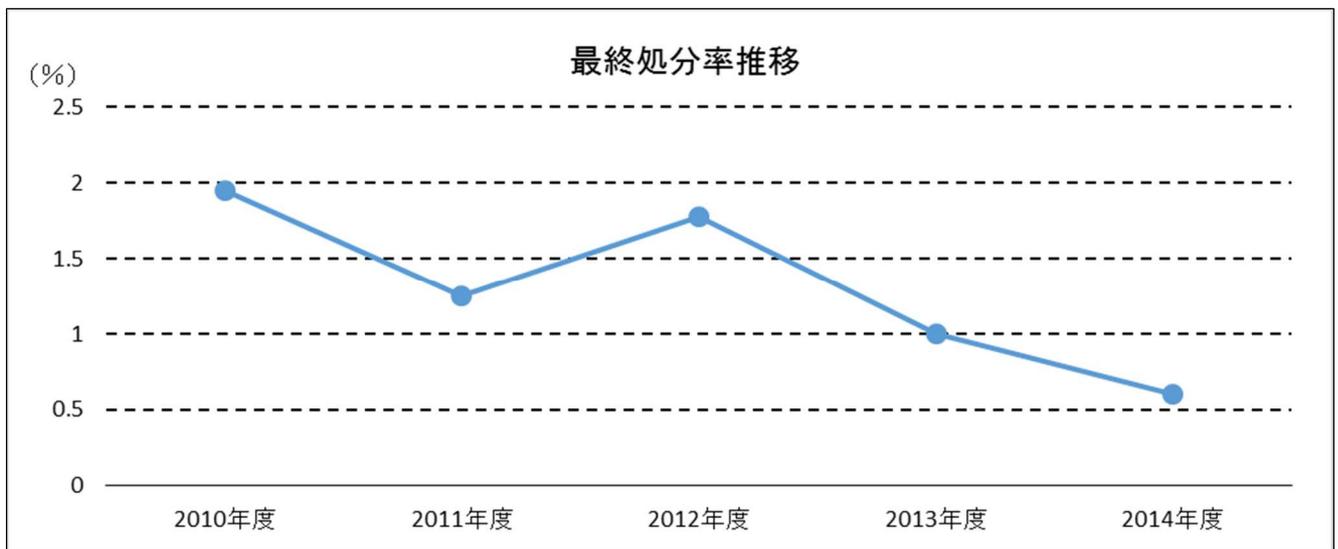
2014年度の廃棄物発生量は前年度に比べ、生産量の変動を受け増加しました。しかし、最終処分率については3R活動により改善されました。

私たちは更に3Rを推進し、資源の有効利用・資源循環に取り組み廃棄物の削減、最終処分率の改善に努めます。

### 1. 廃棄物最終処分率推移(国内事業所)

(単位:%)

年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
最終処分率	2.0	1.3	1.8	1.0	0.6



### 2. 2014年度水資源投入量－排水量実績

(単位:千t)

年度	2014年度
国内排水量	8,902
海外排水量	178
排水合計	9,080

## 化学物質管理

当社グループでは化学物質を適正に管理し、下記の化学物質をPRTR制度に基づき、毎年報告しています。

### 1. 2014年度PRTR制度報告結果まとめ

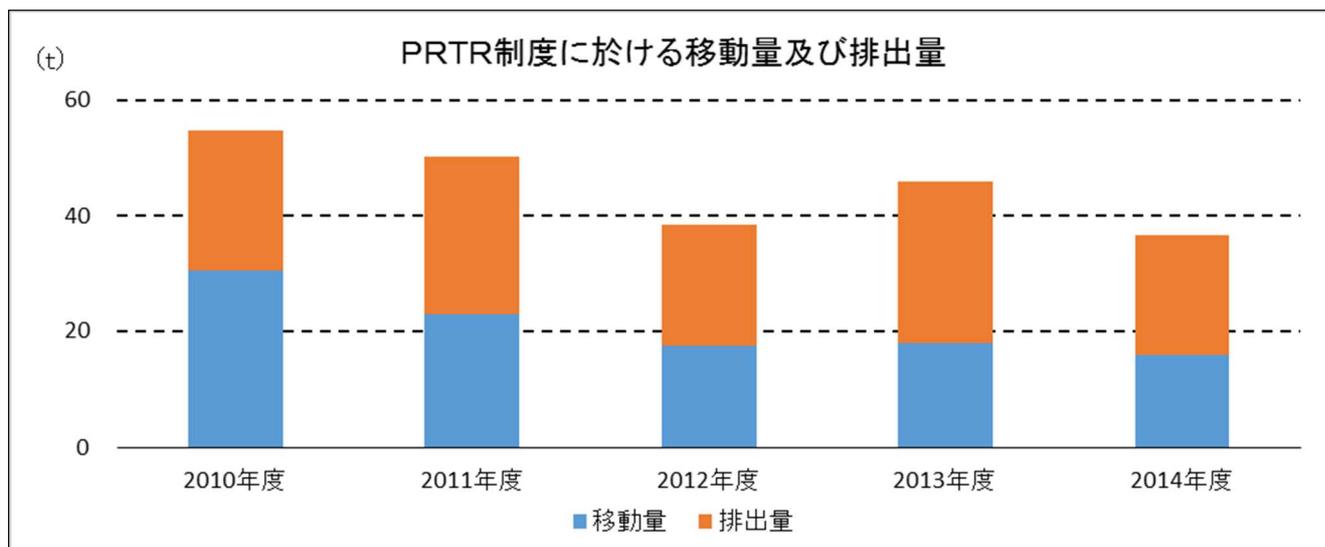
(単位:kg)

第一種指定化学物質名称	政令 番号	排出量		移動量		排出量	移動量
		大気への 排出	公共水域 への排出	下水道への 移動	事業所外 への移動		
アンチモン及びその化合物	31	0	0	0	21	0	21
キシレン	80	29	0	0	0	29	0
銀及びその水溶性化合物	82	0	0	0	0	0	0
コバルト及びその化合物	132	0	0	0	0	0	0
トリエチルアミン	277	0	0.5	4.5	2,250	0	2,255
1,2,4トリメチルベンゼン	296	33	0.0	0	0	33	0
トルエン	300	4,100	0	0	1,100	4,100	1,100
鉛化合物	305	0	0	0	59	0	59
フッ化水素及びその水溶性塩	374	330	270	0	0	600	0
1-ブロモプロパン	384	1,400	0	0	300	1,400	300
ホウ素化合物	405	453	13,663	43	12,135	14,116	12,178
マンガン及びその化合物	412	0	0	0	0	0	0
メチルナフタレン	438	468	0	0	40	468	40

### 2. PRTR制度における移動量及び排出量推移

(単位:t)

年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
移動量	30	23	17	18	16
排出量	24	28	21	28	21



## 環境会計

2014年度の環境への投資、施策として評価した対象は58件で、その環境相当投資額は129百万円でした。省エネ、省資源を更に促進させるための投資を行っております。

また、リスク低減にも多くの投資を行い環境事故未然防止に努めました。

今後も当社グループでは、地球にやさしく、社会的責任を重視する投資を行ってまいります。

(単位:百万円)

年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
評価の対象とした 投資・施策案件	59件	71件	45件	42件	58件
環境相当投資額	307	472	88	53	129
直接効果合計	119	574	135	108	139
間接効果合計	25	40	8	6	6

## その他環境負荷データ

ライフサイクル的視点による環境負荷量の把握と情報公開について電解コンデンサの標準データの作成・公開を行っています。これは一般社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)様のホームページ(<http://home.jeita.or.jp/ecb/lcaguide.html>)でご覧いただけます。